

2022 年度 事業報告

(2022 年 4 月 1 日 ～ 2023 年 3 月 31 日)

2022 年度の概況

2022 年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらの事業運営となりました。運営するうえでは、感染対策に重点をおき、「感染しない」「させない」「持ち込まない」を職員一丸となって実践し、入所者 1 名の感染だけにとどめクラスターの発生はありませんでした。

人材育成では、喀痰吸引等研修の現地研修を行い、10 名の方が修了し「認定特定行為業務従事者認定証」が交付されました。介護現場で活躍していただいております。

館内の様子を月 1 回動画(YouTube)に載せ発信しました。ご利用者様のご家族からも見ていただき、再生回数ものびております。館内で上映すると自分の姿が映った利用者様は笑顔で喜んでいました。新規の利用者様からは映像で写した職員が対応すると、「動画で見ました」と反応がありました。

その他、職員の給与明細を電子化しスマートフォンに伝送する仕組みを取り入れたことで、変則勤務で働いている多くの職員が、いつでも、どこでも給与情報を確認できることになりました。事務の省力化とペーパーレス化も実現しました。

また、昇降可能なストレッチャー、スライドボードを導入し、活用が定着したことにより、利用者様にとりましては安全、安心で心地よい介護サービスを受けることができ、職員にとっては無理のないかたちで継続的に良質な介護サービスを提供できるようになりました。

2022年度 各事業部門報告

() は前年度数値

(1) 特別養護老人ホーム

2022年度も引き続き新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、県内陽性者の状況に応じて不特定多数の方との接触を避けた施設で行える行事や外出ドライブ等を実施し活動の機会を少しずつ増やしています。7月には夏祭り、9月には芋煮会を施設内の幸せの道を活用し開催しました。屋台や縁日、出し物を実施しご利用者みなさんに参加していただきました。

また、サービス担当者会議を本格的に再開し本人、家族を交えて多職種で話あう機会を設ける事でコロナ過の中でも家族との関りや繋がりを持ちながらご利用者様や施設の状況が詳細に把握でき、安心してご利用いただけるような体制の再構築しております。

内訳は利用者定員90人に対して、平均利用率97.3%(98.3%)、平均要介護度3.81(3.79)、平均年齢88.1歳(87.9歳)、入退所の状況は年間入所者26人(21人)、退所者は23人(19人)、うち要介護度1.2の特例入所0人(0人)となっています。看取り介護12人(11人)実施いたしました。

(2) 百花のいえ

新型コロナ感染対策の中でも楽しみを持っていただけるよう、季節ごとの制作活動や映画鑑賞等の施設内活動の充実化を図ったり、ご利用者様の誕生日に合わせ誕生会を開催することで、行事として行っていた出前は大変好評いただいております、12月からは定期で開催しておりご利用者様の楽しみの1つとなっています。

行事や活動、日常の様子を写真に収め、ご家族様にお便りと共にプレゼントし面会を制限させていただいている中でもご家族様に普段の様子が伝わる様取り組んできました。

内訳は利用定員20人に対し、平均利用率97.4%(96.6%)、平均介護度4.16(3.9)、平均年齢88.1歳(90.7歳)、入退所の状況は年間入所11人、退所者11人(9人)となっています。

看取り介護3人(3人)実施いたしました

(3) ショートステイセンター

他事業所での対応が難しい経鼻経管栄養や吸引等の医療連携が必要なご利用者様の受け入れを積極的に行いご本人様の健康状態を維持させていただくことで在宅生活継続のお手伝いをさせていただき、ご家族様にも安心を提供することができました。

年間利用延人数3,924人(3,667人)、要支援者が8人(28人)、合わせて3,932人(3,695人)で利用率107.9%(101.3%)でした。

(4) デイサービスセンター

2022年6月1日よりデイサービスの営業日を月～金曜日にし、土・日曜日は休みとなりました。また、利用定員を30名から20名に縮小しています。新型コロナウイルス感染症の感染対策をしながら、楽しくデイサービスを利用していただけるよう、外出等の活動を増やしていきました。サンシャインクラブは11月1日より昼食の提供を再開しています。

年間利用延人数は、一般型の要介護者が2,303人(2,743人)、総合事業382人(414人)、合計2,685人(3,157人)で利用率は45.6%(34.6%)でした。

サンシャインクラブの年間利用延人数は、1,444人(1,297人)でした。

(5) 居宅介護支援センター

今年度は介護支援専門員1名で活動を行いました。

コロナ禍の中では在宅生活を希望される利用者家族が多く、多職種連携を軸としサービス調整を行って参りました。利用者家族の価値観や家族構成も様々でニーズに応えるためには、知識と技術が求められ、特に力を入れて取り組みましたことは「アドバンスケアプランニングと意志決定」「ケアマネジメントにおける世帯支援」についての研修には積極的に参加しました。

虐待ケースもあり、包括支援センターに相談し地域ケア会議を開催しました。利用者家族間の調整をはかり、多職種が連携し現在も在宅で生活を続けております。

昨年度に引き続き「AIプラン作成事業」の委託を受けAI、介護支援専門員によるアセスメント票の双方から読み解き根拠を明確化、ケアプランに反映させ自立支援に繋げる事ができたケースもありました。

ケアプラン件数合計件 417件 (内予防プラン5件)

(6) 訪問看護ステーション

ステーションが開所し3年目となり、健康チェックや保清ケア、抗がん剤治療中の在宅フォロー、ターミナルケアなど医療依存度の高い利用者様の受け入れも多く対応しています。また精神科訪問看護の提供も行い幅広い疾患や病状に対応することが出来ました。新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で、利用者様やご家族様が罹患する事例が数件あり、感染対策を強化しながら訪問対応継続することが出来ました。スタッフ間でも勤務調整しながら連携を取り業務を行うことが出来ました。また研修に関しても自己のスキルアップに繋がるよう、ZOOM研修をメインに定期的に受講しました。

年間利用者数 198人 (医療保険：23人、介護保険：175人) (183人)、訪問延べ件数 866件(800件)でした。

(6) シルバーハウジング

山形市から委託を受け、山形市大森住宅シルバーハウジング(高齢者世話付住宅)に居住する高齢者に対し生活援助員を派遣し、安否確認、生活相談、緊急時の対応等のサービスを提供しました。24時間室内での活動がないと警備会社から電話連絡が入る仕組

みになっています。 会話する機会を多くして、集会所への訪問日には相談に来られない人のため、訪問しお話を聞く等の対応を行いました。 誕生日のメッセージカードをさしあげる活動を継続しました。

また、新型コロナワクチン接種について3名に施設内にて接種いたしました。内訳は、安否確認が2,895件(3,478件)、生活相談が30件(36件)、緊急対応が0件(4件)でした。

(7) 地域包括支援センター

今年度もコロナ禍ということもあり、感染対策を講じながらではあったが、地域の様々な会議や介護予防教室に参加させていただくことができた。楯山地区では地域の方々のご相談の上、薬についての講座や介護サービスの料金の目安などの講座を開催し、多くの方に福祉や健康について学んでいただける機会となった。高瀬地区では百歳体操などこれまで継続してきた活動の支援に加え、新たに移動販売車の導入についても協議し、昨年12月より開始となっている。多くの地域住民の方にご利用いただき、今後販売地域の拡大なども検討されている。その他、包括支援センターだよりをきっかけに人生会議について講義してほしいといった依頼もあり、福祉推進会議でお話しする機会を頂くことができた。山寺地区では昨年度より開始となった百歳体操に加え、口腔についての講座を開催したところ大変好評で年に2回開催する運びとなった。百歳体操後に毎回5分程度口腔体操も取り入れており、定着しつつある。また、8050問題や生活困窮といった困難ケースが数多くあり、個別地域ケア会議の開催をし、関係機関や地域住民との連携を図った。

初回相談件数が127件(159件)、相談後の連絡・調整が4890件(4696件)、介護予防ケアプラン作成が1589件(1701件)だった。